



愛知医科大学大学院 看護学研究科

修士課程

博士後期課程

AICHI MEDICAL UNIVERSITY
Graduate School of Nursing 2026

愛知医科大学大学院 看護学

～常に新たな看護のあり方を探究し

愛知医科大学大学院看護学研究科は、高度専門職業人にふさわしい看護実践者として、これからの看護研究・教育・管理に貢献できる人材を育成するために2004年4月に修士課程を開設しました。

その後、2007年度に感染看護学領域において高度実践看護師（専門看護師[CNS]）コースを開設し、2015年10月には高度実践看護師（診療看護師[NP]）コースにおいて、看護師特定行為研修制度の研修機関として厚生労働省から指定（38行為21区分）を受けるなど着実に発展を遂げ、更なる看護学の発展に寄与する人材の育成を行っています。

研究科長あいさつ



Message from the Dean

研究科長
若杉 里実
WAKASUGI Satomi

愛知医科大学大学院看護学研究科は2004年に開設し、2025年3月までに203名の修了生を送り出しました。このうち診療看護師コースは、2023年度に10周年を迎え、50名の修了生を送り出しております。修了生たちは全国各地から来ており、修了後は実践者・管理者・教育者として活躍をしています。

社会情勢が複雑に変化し将来の予測が困難な時代になりつつある中、看護専門職者に求められる場は拡大し、役割は多様化してきており、様々な課題を実感しながら実践に取り組んでおられることと思います。

本研究科では、実践家である皆さんが日常の看護実践で気になっている現象を紐解くことから始めます。自らの体験を語り、自分自身の考えを整理し、理論や先行研究との関連を議論し合い、研究手法を用いて研究を実施し、論文にまとめていくというプロセスを通して、大学院でこそ身につけることが期待されている「高度な専門的知識」「普遍的なスキル」「様々な場面で応用可能な能力」を自律的に学修してみませんか。

本研究科は、社会人として働きながら大学院に通う院生が多いため、夜間開講や長期履修制度等、学びやすい教育環境を整えています。さらに、2025年4月からは、看護学研究科博士後期課程として、PhDとDNPの2コースを開設いたしました。看護学研究科修士課程から博士後期課程まで学修を継続し、キャリアアップにつなげることができる質の高い教育の充実を目指していきます。皆様のご入学を心からお待ちしております。

修士課程	修士論文コース	高度実践看護師コース	
	2年間（長期履修制度では3年間）で研究の基礎を学び修士論文を書き上げます。10の多彩な専攻領域を設置し、看護実践者としての研究能力の向上と看護教育・管理に貢献できる教育を行います。	CNSコース 感染予防ケアと感染管理を実践する専門看護師を育成します。	NPコース 診療とケアを統合した高度実践看護を実践することができる診療看護師（NP）を育成します。
博士後期課程	PhDコース	DNPコース	
	3年間（長期履修は4年間）で、看護学の高い専門知識をもち、学術性を探究する研究者・教育者を育成する教育を行います。研究テーマを深めて博士論文に取り組みます。	3年間（長期履修は4年間）で、看護実践の質の改善や組織変革等を実現させる実践家の博士号を取得できる教育を行います。看護実践の場で行うプロジェクト研究に取り組みます。	

研究科 修士課程・博士後期課程

創造していく人材を育成します～

2025年4月には博士後期課程を開設し、看護学の学術的発展に貢献できる研究者・教育者を育成するPhDコースに加え、高度な看護の実践者・管理者となる人材を育成するDNPコースを設置しました。修士課程において高められた専門性に加えて、常に新たな看護のあり方を探究し創造できる人材を育成していきます。

修士課程	博士後期課程
教育理念	
看護現象に根ざした人間存在の原理的・統合的・全人的理解を基盤として、学際的・国際的な視点を加味した看護学を教授し、卓越した看護実践能力及び研究・教育・管理能力を持つ高度実践看護者を育成するとともに、研究・教育を通して看護学の発展に寄与する。	看護学研究者として自立して研究活動を行うための高度な研究能力とその基盤となる豊かな学識を、また、看護実践の探究者としての高度な実践能力とそれを裏づける豊かな学識を培うことを通して、看護学・看護実践の発展に寄与する。
教育目標	
1. 高度な知識・技術と卓越した実践能力を持つ高度専門職業人を育成する。 2. 看護の質向上に寄与する研究・教育・管理能力を持つ高度専門職業人を育成する。 3. 国際的視野を持って、看護・看護学を探究しつづける人材を育成する。 4. 看護学の学問的発展に寄与できる研究者・教育者を育成する。	【PhDコース】 1. 自立した専門職者として高度な研究能力を有し、グローバルかつ学際的に看護学を探究し続ける人材を育成する。 2. 看護学を探究し、看護学の学術性を深めていく能力を有した人材を育成する。 3. 看護学研究を主導し牽引していくことのできる研究者・教育者となる人材を育成する。 【DNPコース】 1. 高度看護実践者として卓越した知識・技能をもち、看護実践の質向上・変革を推し進めることのできる人材を育成する。 2. 高度看護実践者として実装的研究を推進するために必要な研究能力を有する人材を育成する。 3. 実装的研究を実現していくことのできる人材を育成する。
学位	
修士（看護学）	博士（看護学）
募集人数	
15名	4名



担当教員研究内容一覧

教育研究分野・専攻領域及びコース

教育研究分野	専攻領域	コース
基礎看護学	基礎看護学	修士論文
	看護管理学	
母子看護学	母性看護学	
	小児看護学	
成人・老年看護学	慢性看護学	
	精神看護学	
精神・在宅・地域看護学	在宅看護学	
	地域看護学	
高度実践看護学	感染看護学	修士論文
		高度実践看護師(専門看護師[CNS])
	臨床実践看護学	修士論文
		高度実践看護師(診療看護師[NP])

担当教員研究内容一覧



基礎看護学領域

篠田 かおる 教授

- 看護技術の根拠となる形態機能に関する研究
- 多職種連携教育に関する研究
- 感染予防教育に関する研究



看護管理学領域

山中 真 教授

- 転倒外傷予防
- 看護師の実践技術の量的評価



看護管理学領域

山本 恵美子 教授

- 組織の安全文化構築に向けた教育開発に関する研究
- 多職種連携教育に関する研究
- 卒前・卒後の一貫した医療安全教育に関する研究



母性看護学領域

山本 弘江 准教授

- 夫婦に対する産後うつ病の早期発見とスクリーニングに関する研究
- 子育て期の家族のメンタルヘルスに関する支援の検討
- 親の育児ストレスに関する研究



小児看護学領域

茂本 咲子 教授

- 子どもと家族を主体としたケアに関する研究
- 子どもと家族の相互作用を支える看護に関する研究
- 低出生体重児の継続看護に関する研究



慢性看護学領域

谷口 千枝 教授

- 行動変容に関連する心理・社会的要因の分析
- 禁煙行動に関する疫学研究
- レセプトデータを用いた疾病と生活習慣との関連分析



慢性看護学領域

森 莉那 准教授

- がん患者の治療と社会生活の両立支援に関する研究
- 慢性的な病いをもつ人々のセルフマネジメント支援に関する研究
- 慢性的な病いをもつ人々への外来看護師の役割に関する研究



精神看護学領域

心光 世津子 教授

- 精神科病棟看護における自己決定支援に関する学際的研究
- 精神障害からの回復・リカバリーに関する研究
- セルフヘルプ・グループやピアサポートに関する研究



在宅看護学領域

佐々木 裕子 准教授

- 在宅ターミナルケアに関する研究
- 小児在宅ケアに関する研究
- 地域・在宅ケアで取り組む災害対策と要配慮者支援に関する研究
- 在宅看護教育に関する研究

在宅看護学領域

白井 裕子 准教授

- 在宅における看護支援に関する研究
- 在宅看護教育に関する研究
- 生活困窮者の生活・健康支援に関する研究



地域看護学領域

坂本 真理子 教授

- 多文化に対応する子どもと親のための健康ハンドブックの開発
- 地域で活動する保健師の異文化間看護能力育成プログラムの開発
- 保健師の歴史研究



地域看護学領域

若杉 里実 教授

- 地域看護活動に関する研究
- 保健師の人材育成に関する研究
- 地域看護学教育に関する研究
- 看護学生の慢性疼痛教育に関する研究



感染看護学領域

青山 恵美 准教授

- 医療関連感染予防に関する研究
- 感染管理、感染症看護に関する研究
- 結核感染予防に関する研究



感染看護学領域

長崎 由紀子 准教授

- 感染予防・感染症看護に関する研究
- 高齢者施設における感染予防に関する研究
- 感染症看護専門看護師・感染管理認定看護師に関する研究



臨床実践看護学領域

泉 雅之 教授

- 医療コミュニケーションに関する研究、認知症の臨床



臨床実践看護学領域

黒澤 昌洋 准教授

- 診療看護師(NP)・看護師特定行為実践に関する研究



臨床実践看護学領域

橋本 茜 講師

- クリティカルケア看護に関する研究
- 災害看護に関する研究
- ケアリングに関する研究

修士論文コース

各分野の第一人者を講師として招き、幅広く専門的な看護学を教授

修士論文コースは、10の多彩な専攻領域を設置し、看護実践者の研究能力の向上と看護教育・管理に貢献できる看護職者の質的向上をめざした教育を行っています。働きながら学修を続けることができるよう、平日の夜間や土曜日などに開講しています。

カリキュラム

授業科目		配当 年次	単位数		修得すべき 単位数
			必修	選択	
共通科目	現象学的看護学	1		2	当該指導教員と相談して選択(計14単位以上) 必修以外から
	看護理論	1	2		
	看護倫理	1	2		
	看護教育論	1		2	
	看護管理論	1		2	
	看護研究方法論Ⅰ	1	2		
	看護研究方法論Ⅱ	1		2	
	コンサルテーション論	1		2	
	看護政策論	1		2	
	国際看護学	1		2	
	英語文献講読	1	2		
	基礎統計学演習	1		1	

授業科目		配当 年次	単位数		修得すべき 単位数
			必修	選択	
専門科目	基礎看護学特論Ⅰ	1		2	(1) 専攻領域の講義科目 4単位 (2) 専攻領域の演習科目 4単位
	基礎看護学特論Ⅱ	1		2	
	基礎看護学演習	1		4	
	看護管理学特論Ⅰ	1		2	
	看護管理学特論Ⅱ	1		2	
	看護管理学演習	1		4	
	母性看護学特論Ⅰ	1		2	
	母性看護学特論Ⅱ	2		2	
	母性看護学演習	1		4	
	小児看護学特論Ⅰ	1		2	
	小児看護学特論Ⅱ	1		2	(3) 特別研究 8単位 (計16単位以上)
	小児看護学演習	1		4	
	慢性看護学特論Ⅰ	1		2	
	慢性看護学特論Ⅱ	1		2	
	慢性看護学演習	1		4	
	精神看護学特論Ⅰ	1		2	
	精神看護学特論Ⅱ	2		2	
	精神看護学演習	1		4	
	在宅看護学特論Ⅰ	1		2	
	在宅看護学特論Ⅱ	2		2	
	在宅看護学演習	1		4	
	地域看護学特論Ⅰ	1		2	
	地域看護学特論Ⅱ	1		2	
	地域看護学演習	1		4	
	感染看護学特論Ⅰ	1		2	
	感染看護学特論Ⅱ	1		2	
	感染看護学演習	1		4	
	特別研究(修士論文)	2		8	

大学院での学びを看護の実践に活かしたい

| Senior Message

在宅看護学領域 修士論文コース 浅井 咲希さん 第2学年

愛知医科大学看護学部を卒業後、20年の実践経験を経て、もっと学びを深めたいという気持ちから大学院進学を決めました。家族や職場の協力、土日や夜間の講義・ゼミのおかげで、仕事や子育てをしながら、学びを続けることができています。

大学院では、各専門分野で活躍されている先生方の講義を通して、新たな知識や視点を獲得し、視野を広げることができました。また、修士論文コースに加え、専門看護師や診療看護師コースの方々とグループワークを通して、多様な看護領域の話を知ることができ、学びを深めることができました。大学院での学びを日々の訪問看護に活かし、関わる人々の健康に貢献していきたいと考えています。



高度実践看護師（専門看護師[CNS]）コース

感染看護学分野の高度実践看護師を育成

感染看護学領域は、専門看護師教育機関として認定を受けており、修了者は公益社団法人日本看護協会が実施する専門看護師認定審査（感染症看護）の受験資格が得られます。

教育方針

高度実践看護師（専門看護師[CNS]）コースは、対象のクオリティ・オブ・ライフの向上を目的として、キュアとケアの融合による高度な看護学の知識・技術を駆使し、個人・家族・集団・地域に対して、卓越した感染予防ケアと感染管理を実践する高度実践看護師の育成を目指します。

課題研究では、医療関連施設における感染症患者及び易感染患者のケア、感染症に伴う倫理的問題への介入、施設及び地域における感染管理活動、災害時の感染防止、感染症集団発生時の疫学調査と感染拡大防止対策などについて探求し、感染看護学の発展と看護の質向上に寄与する研究論文の作成を目指します。



カリキュラム

授業科目		単位数	修得すべき単位数
共通科目名	看護理論	2	8単位以上
	看護倫理	2	
	看護教育論	2	
	看護管理論	2	
	看護研究方法論Ⅰ	2	
	コンサルテーション論	2	
	看護政策論	2	
	フィジカルアセスメント	2	6単位
	臨床薬理学	2	
	病態生理学	2	

授業科目		単位数	修得すべき単位数
専門科目名	感染看護学特論Ⅰ	2	18単位
	感染看護学特論Ⅱ	2	
	感染看護学特論Ⅲ	2	
	感染看護学特論Ⅳ	2	
	感染看護学特論Ⅴ	2	
	感染看護学演習Ⅰ	4	10単位
	感染看護学演習Ⅱ	4	
	感染看護学実習Ⅰ	3	
	感染看護学実習Ⅱ	4	
	感染看護学実習Ⅲ	3	
	課題研究	4	4単位

合計：46単位以上

今後は大学院での学びを活かし、看護の臨床現場の課題を、研究的視点をもって解決できるようになりたい

| Senior Message

感染看護学領域 高度実践看護師（専門看護師[CNS]）コース

平工 加奈子さん

第2学年

私はこれまで病院内で感染管理業務に従事してきました。その経験の中で、感染症の看護の視点が不足していると痛感したことが大学院進学のかきかけです。CNSコースでは、感染症学・微生物学の専門家の先生方の講義を拝聴でき、少人数での受講であるため疑問を解決しながら学ぶことができます。また、感染症看護専門看護師の諸先輩方々の講義も多数あり、実践的な講義内容は資格取得後の活動イメージを具体的に考える機会となっています。就業しながらの進学であるため、講義や研究の時間を確保することは大変です。しかし、講義、先生方や院生間でのディスカッションは、これまでの看護を理論づけて考え直す貴重な時間となっています。



高度実践看護師（診療看護師 [NP]）コース

診療看護師 (NP) とは

病気を診断し治療を行うナース・プラクティショナーという看護師が海外では活躍しています。この役割の一部を担う看護師が診療看護師 (NP) です。診療看護師 (NP) とは、「患者のQOL向上のために医師や多職種と連携・協働し、倫理的かつ科学的根拠に基づき一定レベルの診療を行うことができる看護師」です。愛知医科大学大学院看護学研究科では、日本NP教育大学院協議会の養成教育カリキュラムに基づき、診療看護師 (NP) の養成を行っています。

診療看護師 (NP) の特徴とは

診療看護師 (NP) は、看護学を基盤として、診療とケアを統合した高度実践看護を実践することができる看護師です。特徴的な違いとして、これまでの看護学の知識・技術に加えて、医学的な視点を学ぶことによって、病気の診断技術と治療管理技術を修得します。加えて、厚生労働省「看護師の特定行為に係る研修制度」を通じて、38行為21区分の特定行為研修を行っています。



本学の特色

2コース同時開講

本学では、クリティカルケアコースとプライマリケアコースの2コースを開設しており、日本NP教育大学院協議会主催・NP資格認定試験の受験資格を得ることができます。

教育利点

医学部が併設されているメリットを活かし、薬理学、生理学などの基礎医学に関する科目は、医学部と同様の教育を受けることができます。また、臨床経験豊富な医師や全国で活躍する診療看護師 (NP)、諸外国のナース・プラクティショナーの講義によって、臨床実践能力の向上を目指すことができます。加えて、診療看護師 (NP) 資格をもつ看護教員が在籍しており、看護の視点を持って学ぶことができます。

看護と医学の視点を統合し、より良いケアを提供するために

Senior Message

臨床実践看護学領域 高度実践看護師（診療看護師 [NP]）コース

田原 健成さん

第2学年

私は社会人経験を経て看護師となり、集中治療室での臨床経験を積んだ後、本大学院へ進学いたしました。本コースを選択した理由は、看護学の基盤を大切にしながら、医師の視点を学ぶことができるカリキュラムに魅力を感じたためです。より良い看護を提供するためには、医学の知識を深めることが重要であり、それが質の高いケアへ繋がると考えています。

大学院では、医学部の講義や診療看護師 (NP) による講義を通じて、必要な知識や視点を学ぶことができます。また、演習の授業では、それらの学びを統合し、実践を通じて思考過程を深めていきます。さらに、クリティカル領域やプライマリ領域の講義を選択することで、幅広い知識を身につけることが可能です。

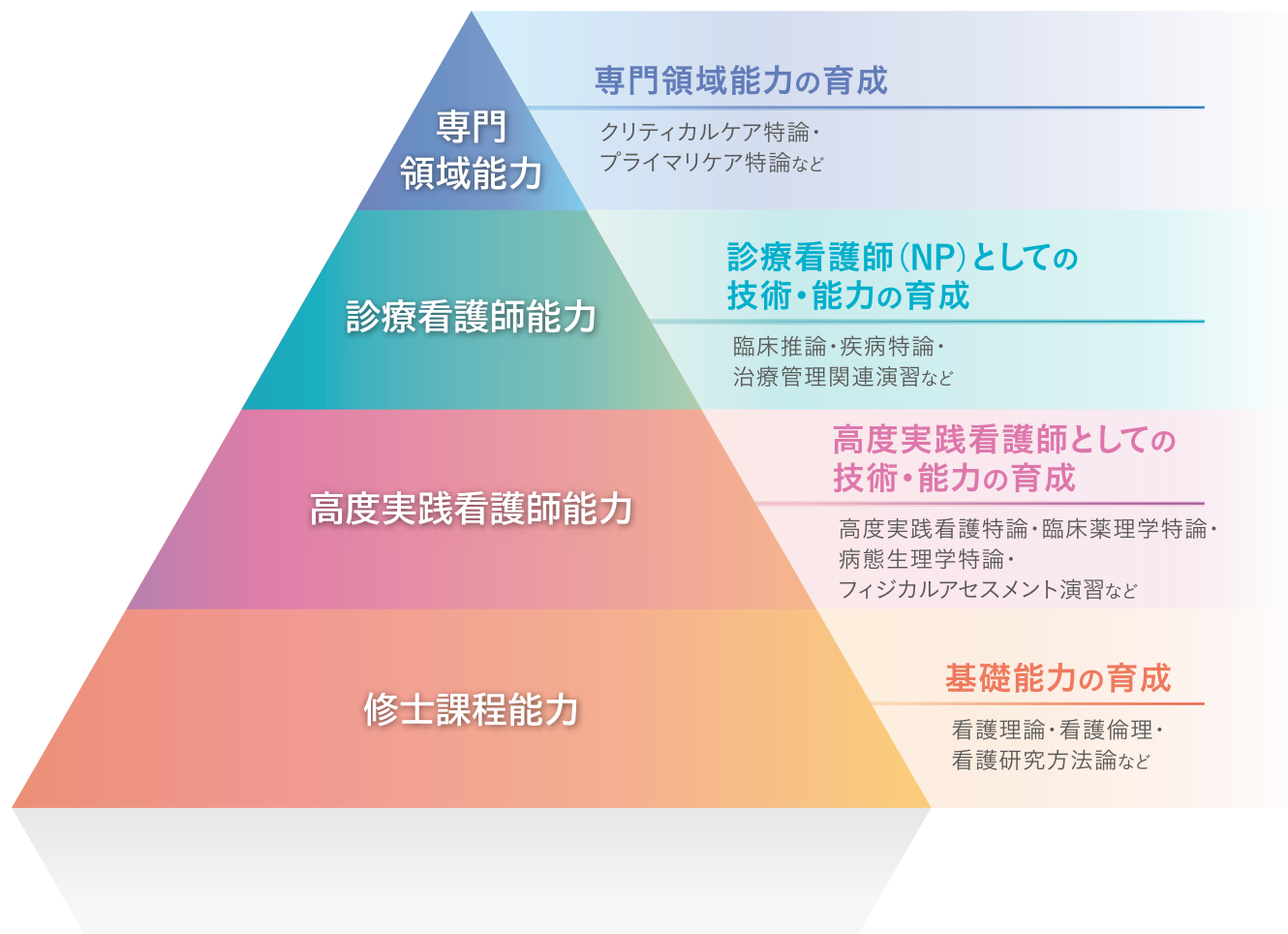
修了後は、大学院での学びを活かし、チーム医療の架け橋となれるよう、今後も精進して参ります。



高度実践看護師（診療看護師 [NP]）コース

カリキュラムの特徴

諸外国の高度実践看護師養成教育モデルを参考に、段階的に、系統化された教育を積むことで看護学修士としての看護の視点を伸ばしつつ、診療看護師（NP）として必要な知識・技術を修得することが可能です。加えて、クリティカルケアコースとプライマリケアコースの両コース開設によって、より専門性を深めた教育を自身のキャリアプランに沿って学ぶことが出来ます。



充実した学習・実習環境

診療看護師[NP]コースでは、専用の演習室を備えています。気管挿管、動脈穿刺、縫合シミュレーターや超音波診断装置も常備されています。シミュレーションセンターでは、高機能シミュレーターを用いて、シミュレーションを行っています。

学修は、ICTを活用した学修支援システムにより、自宅でも文献検索やレポートの提出ができ、社会人が学修しやすい支援を行っています。大学院生には、子育てをしながら進学する方も多くなっています。

実習は、愛知医科大学病院だけでなく、地域の中核病院、在宅診療専門クリニック、山間部や離島などのへき地の診療所などでも実習を行い、高度先進医療から地域医療まで幅広い対応が可能な診療看護師（NP）の育成を目的としています。



カリキュラム

授業科目		単位数	修得すべき単位数
共通科目	看護理論	2	計10単位以上
	看護倫理	2	
	看護研究方法論Ⅰ	2	
	英語文献講読	2	
	看護教育論,看護管理論,コンサルテーション論,看護政策論(選択)	2	
専門科目	高度実践看護特論	2	計58単位
	チーム医療・看護管理特論	2	
	保健医療福祉システム特論	2	
	臨床薬理学特論	3	
	病態生理学特論	5	
	疾病特論	3	
	臨床推論	3	
	フィジカルアセスメント演習	2	
	呼吸器・循環器治療のための実践演習	4	
	ドレーン管理のための実践演習	2	
	疾病と治療 カテーテル管理と創傷管理	3	
	疾病と治療 薬物治療Ⅰ	3	
	疾病と治療 薬物治療Ⅱ	3	
	人体構造演習	1	
	NP実習	20	
選択科目	クリティカルケア特論(選択)	2	計2単位以上
	プライマリケア特論(選択)	2	
課題研究	課題研究	4	計4単位

※診療看護師〔NP〕コースの専門科目における講義および実習は、昼間に実施されます。

合計：74単位

愛知医科大学奨学金制度

高度実践看護師（診療看護師〔NP〕）コース修了後に、愛知医科大学病院に診療看護師（NP）として業務に従事することを希望する学生については、奨学金を受けることができます。

奨学金の月額等

奨学金額（月額）	貸与期間	貸与総額	返還免除までに要する期間
200,000円	24か月	4,800,000円	48か月

※1 奨学生の選考は、入学後に実施します。（4名程度を予定）

2 次の場合は、奨学金を一括返還いただきます。

・課程修了しなかった場合

・課程修了後、愛知医科大学病院に就職しなかった場合

3 愛知医科大学病院で勤務した月数に応じ、次により計算して得た額の返還債務を免除します。

貸与を受けた額÷返還債務免除までに要する期間×勤務した期間

修了生からのメッセージ

Senior Message

看護を見つめ直し、診療看護師(NP)として実践を考え、医療の課題に向き合う

愛知医科大学病院

臨床実践看護学領域

高度実践看護師(診療看護師[NP])コース



佐藤 知史さん

2025年3月修了

私が診療看護師(NP)として求められるのは、今一度「看護とは何か」を振り返り、その本質を踏まえながら、自分なりの活動の在り方を模索し続けるとともに、取り組みをどのように成果として示し、医療の発展に貢献できるのかを考えていくことだと感じています。

本コースでは、多分野の専門家と交流し、診療看護師(NP)としての視野を広げる機会を得ました。臨床の実践に加え、医療の課題をどう解決し、継続的に改善するかを考えられたことは、大きな学びでした。

また、診療看護師(NP)として、研究の方法論を学ぶことも重要だと考えています。経験や直感だけでなく、客観的なデータをもとに論理的にアプローチし、より良い実践につなげていく必要があります。今後も、臨床と研究の両面から医療に貢献できるよう研鑽を積んでいきたいと思っています。

自分自身の看護観を、より学問的・多角的な視点で深める

金城学院大学看護学部 教員

看護管理学領域 修士論文コース



柴田 年広さん

2025年3月修了

私は、入学前に科目履修生として本学大学院の授業を受講していくなかで、看護を学術的に理解していくことの面白さを感じ、大学院への進学を決めました。

入学当初は、授業で学んだ用語の意味を理解することに時間がかかったり、研究をどのように進めていったらいいのかなど、悩んだこともありましたが、先生方から丁寧にご指導をいただいた機会を通して、看護研究の意義や、研究の進め方などを体系的に学ぶことができ、自分自身の研究課題や看護観をより明確にすることができたように思います。その他にも、自分の専攻とは異なる分野で活躍されている院生さんとの交流を通して、多角的に看護を捉えることの重要性にも改めて気づくことができました。

今後は、大学院で学んだ知識を活かし、日々の看護実践・看護教育に活かしていきたいと考えています。

臨床判断力と多職種連携を高め、入院から退院後の生活を見据えた患者中心の看護の実現へ向けて

東千葉メディカルセンター

臨床実践看護学領域

高度実践看護師(診療看護師[NP])コース



並木 結美菜さん

2025年3月修了

私が進学した理由は、看護師の視点に加え、診療のプロセスや臨床判断を深く理解することで、より質の高い看護を提供できると考えたからです。

本コースでは、医学講義や臨床推論を学び、シミュレーション学習や実践的な演習の反復によりトレーニングを行いました。また、実習では、診療看護師(NP)の患者の訴えを的確に捉え、迅速に評価・対応する姿を通して、理論だけでは得られない実践的な知識と洞察力を学ぶことができました。特に、多職種と連携しながら、最適な医療を提供するチーム医療の重要性を改めて実感し、診療看護師(NP)が果たす中心的な役割の大きさを学びました。

今後は、これまでの学びを活かし、臨床判断力と多職種連携を高め、入院から退院後の生活を見据えた患者中心の看護の実現に努めてまいります。

大学院で学んだ知見や課題を解決する力を、感染看護の知識の普及へつなげていきたい

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院

感染看護学領域

高度実践看護師(専門看護師[CNS])コース



林 瑞穂さん

2025年3月修了

私は、COVID-19専用病棟での勤務時、COVID-19に対する不安や疑問を多く感じ、一緒に働く同僚が支えとなっていました。その経験を通して、感染看護を学びたいと考え進学しました。

大学院では、専門の先生方の講義や実習を通して新たな知見を得ることができました。また、同級生や先輩方、他領域の院生たちとの交流では視野を広げることができ、現在でも交流情報交換を続けています。

COVID-19に関する課題研究では、COVID-19パンデミック初期の医療機関の状況を知ることができ、自身の勤務中の疑問や葛藤を解決することができました。また、私が勤務する感染管理室の課題について深く考える機会となり、現在の院内感染対策に活用しています。

今後は、大学院で学んだ知見や課題を解決する力を、感染管理室で感染看護の知識の普及につなげていきたいと考えています。

研究結果を臨床に活かし、より良い看護へ

愛知医科大学病院

慢性看護学領域 修士論文コース



白柳 葵さん

2025年3月修了

私は耳鼻科病棟で看護師として働く中で、頭頸部がん患者への看護を多角的な視点で振り返り、より専門性を高めて追及していきたいと考えて大学院への進学を決めました。授業では他の履修生とグループワークをする機会が多く、多様な臨床経験や考え方に触れる中で様々な視点から看護を考えることができました。看護研究は自身の知識や看護実践を客観的に見つめ直す貴重な機会となり、看護師として未熟であった点にも気づくことができました。研究の過程で自分の考えを言語化することの難しさを痛感しましたが、先生方の丁寧な個別指導により学びを深めることができました。今後は看護師として働く中で、大学院で学んだ専門知識と研究能力を活かして実践と研究を繋げながら、がん患者の看護における課題に取り組んでいきたいと考えています。

精神科看護管理者として効果的なリーダーシップを発揮できるよう成長したい

医療法人同人心会 杉田病院

精神看護学領域 修士論文コース



松岡 瞳さん

2025年3月修了

私は、精神科看護管理者として業務に携わる中で自分の未熟さを痛感し、組織への確かなマネジメントを提供する力やスタッフをサポートできる力を養うために大学院へ進学しました。

大学院では、専門的な知識やスキルを体系的に学ぶことができます。マネジメントやリーダーシップに関する理論を学んでいく中で、現場での実践にどう活かせるかを考える機会が増えました。

また、先生方や学友との出会いも大きな財産となりました。先生方からのご指導は実践的な知識や新たな視点を得ることができ、学びの幅が広がりました。志を同じくする学友とは、互いに刺激を受けながら励まし合うことで、学業への意欲をより一層高めることができました。今後は、大学院で得た知見を活用し、精神科看護の組織マネジメントに活かせるよう日々努力していきます。

昼夜開講制・長期履修制度

医療等の現場で活躍している看護師・保健師の方々が退職や休職することなく学べるよう配慮しています。

また、2015年度入学生からは職業を有している等の事情により、標準修業年限での履修が困難な学生を対象として、修業年限を超えて計画的に履修し、修了することができる「長期履修制度」を導入し、社会人の学びやすさを支援する体制を取っています。



[修士課程]

社会人比率	2025年度入学者	14名中14名(100%) [長期履修制度を利用する学生:0名]
	2024年度入学者	15名中15名(100%) [長期履修制度を利用する学生:1名]
	2023年度入学者	15名中15名(100%) [長期履修制度を利用する学生:1名]
	2022年度入学者	13名中13名(100%) [長期履修制度を利用する学生:1名]

研究指導体制

本研究科における指導体制は、少人数で個別的な指導を行うことを旨としています。このため、初学者であっても確実に研究のプロセスを学習しつつ、論文を作成できる体制を取っています。

特別講義

看護の展望や看護の探求心、知的好奇心を育成するとともに、看護職者としての意識の改革、看護に対する関心への動機付けを狙いとして、年に数回開講しています。

修了生へのサポート

本研究科では、修了生に対してのフォローアップ、キャリアサポートを目的とし『看護学部同窓会』を設置しています。『看護学部同窓会』では専用のメーリングリストを作成し、本研究科で開催するイベントの情報を発信したり、研究科担当教員及び修了生相互の情報交換の場として運用されています。



科目等履修生制度

科目等履修制度は、本研究科において開講している授業科目の「単位修得」を目的として入学する制度です。本研究科において履修した科目は試験等で総合的に判断し、単位を認定します。認定された単位は、15単位を限度として、入学後に単位を認定することができます。

職業実践力育成プログラム(BP)

「職業実践力育成プログラム」(BP)とは、大学・大学院・短期大学・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを文部科学大臣が認定するものです。

本研究科高度実践看護師(診療看護師[NP])コースは平成30年度に、高度実践看護師(専門看護師[CNS])コースは令和元年度に認定されました。



教育訓練給付金(専門実践教育訓練給付金)

高度実践看護師(専門看護師[CNS])コース及び高度実践看護師(診療看護師[NP])コースは、厚生労働大臣より、教育訓練給付金の専門実践教育訓練として指定を受けています。一定の条件を満たせば、2年間で最大112万円の給付が受けられます。

※専門実践教育訓練給付金の制度等の詳細につきましては、ハローワークや厚生労働省のWebページも併せて必ずご確認ください。

愛知医科大学看護学部 博士課程 設立構想

愛知医科大学は、創立20周年記念事業の一環として、既存の修士課程や専門看護師コースの発展形として、2025年に博士後期課程のPhD（看護学博士）コースとDNP（看護実践博士）コースを同時に開設しました。この新たな取り組みは、日本の看護学教育において高いレベルで学術研究と臨床実践の両面を支援することを目指しています。

特に、修士課程で培った教育や卒後教育の実績を活用し、教育・研究・臨床を統合することで、「愛知医科大学の看護」の独自性を確立することを追求します。

PhDコースでは看護学の理論と学術研究の発展を、DNPコースでは看護実践の質向上と臨床現場での実証的研究の展開を重視し、理論と実践の両面から国際的視野を持つ看護専門職者の育成を目指します。

これらの取り組みは、看護の質の向上に向けて、看護学の理論と実践を相互補完し、現場で活用可能な研究成果を創出することで、看護学の発展に貢献します。



教育研究分野・専攻領域及びコース

教育研究分野・専攻領域及びコース

教育研究分野	専攻領域	コ ー ス
基盤看護学	基礎看護学	PhDコース及び DNPコース
	精神看護学	
	感染看護学	
成育・療養支援看護学	母子看護学	
	成人看護学	
	老年看護学	
包括・実践看護学	地域看護学	
	在宅看護学	
	高度実践看護学	

担当教員研究内容一覧



基礎看護学領域

高橋 照子 特命教授

- 看護実践の理論的解明
- 科学史における看護学の位置づけ
- パースィ理論と看護実践



基礎看護学領域

山中 真 教授

- 転倒外傷予防
- 看護師の実践技術の量的評価



基礎看護学領域

山本 恵美子 教授

- 組織の安全文化構築に向けた教育開発に関する研究
- 多職種連携教育に関する研究
- 卒前・卒後の一貫した医療安全教育に関する研究



精神看護学領域

心光 世津子 教授

- 精神科病棟看護における自己決定支援に関する学際的研究
- 精神障害からの回復・リハビリテーションに関する研究
- セルフヘルプ・グループやピアサポートに関する研究



感染看護学領域

矢野 久子 特命教授

- 医療関連感染予防に関する研究
- 感染管理、感染症看護に関する研究



感染看護学領域

青山 恵美 准教授

- 医療関連感染予防に関する研究
- 感染管理、感染症看護に関する研究
- 結核感染予防に関する研究



母子看護学領域

茂本 咲子 教授

- 子どもと家族を主体としたケアに関する研究
- 子どもと家族の相互作用を支える看護に関する研究
- 低出生体重児の継続看護に関する研究



母子看護学領域

山本 弘江 准教授

- 夫婦に対する産後うつ病の早期発見とスクリーニングに関する研究
- 子育て期の家族のメンタルヘルスに関する支援の検討
- 親の育児ストレスに関する研究



成人看護学領域

谷口 千枝 教授

- 行動変容に関連する心理・社会的要因の分析
- 禁煙行動に関する疫学研究
- レセプトデータを用いた疾病と生活習慣との関連分析



老年看護学領域

勝野 とわ子 特命教授

- 認知症家族介護者の健康を支えるケアプログラム開発
- 高齢者・認知症者のQOLを支えるケア開発
- 高齢者へのACP支援
- 看護現象の概念分析



地域看護学領域

若杉 里実 教授

- 地域看護活動に関する研究
- 保健師の人材育成に関する研究
- 地域看護学教育に関する研究
- 看護学生の慢性疼痛教育に関する研究



地域看護学領域

坂本 真理子 特命教授

- 多文化に対応する子どもと親のための健康ハンドブックの開発
- 地域で活動する保健師の異文化間看護能力育成プログラムの開発
- 保健師の歴史研究



高度実践看護学領域

松尾 ミヨ子 特命教授

- 慢性呼吸器疾患患者の長期療養における自己管理アドヒアランスの研究
- 卒後教育におけるフィジカルアセスメントに関する研究
- 高度実践看護におけるエビデンスの活用について



高度実践看護学領域

黒澤 昌洋 准教授

- 診療看護師(NP)・看護師特定行為実践に関する研究

博士後期課程 PhDコース

PhDとは

看護学の学術的発展に貢献できる研究者・教育者となる人材を養成する「(学術)看護学博士(PhD(Doctor of Philosophy in Nursing)コース)」です。

次のような人材の育制を目指しています

- 自立した専門職者として高度な研究能力を有し、グローバルかつ学際的に看護学を探究し続けることができる
- 看護学を探究し、看護学の学術性を深めていく能力を有している
- 看護学研究を主導し牽引していくことのできる研究者・教育者としての能力を有している

カリキュラム

共通科目	配当 年次	単位数		修得すべき 単位数
		必修	選択	
看護科学哲学	1前	2		必修 4単位 選択科目 2単位以上
看護学研究方法論	1前	2		
高等社会統計学	1後		2	
看護教育学特論	1後		2	

前:前学期 後:後学期

専門科目	配当 年次	単位数		修得すべき 単位数
		必修	選択	
基礎看護学特論	1前	2		12単位以上
基礎看護学演習	1後	2		
精神看護学特論	1前	2		
精神看護学演習	1後	2		
感染看護学特論	1前	2		
感染看護学演習	1後	2		
母子看護学特論	1前	2		
母子看護学演習	1後	2		
成人看護学特論	1前	2		
成人看護学演習	1後	2		
老年看護学特論	1前	2		
老年看護学演習	1後	2		
地域看護学特論	1前	2		
地域看護学演習	1後	2		
在宅看護学特論	1前	2		
在宅看護学演習	1後	2		
高度実践看護学特論	1前	2		
高度実践看護学演習	1後	2		
看護学特別研究	1~3	8		



愛知医科大学大学院 博士課程で、 臨床疑問を深く探究する

山中 真 教授



臨床の現場では、日々多くの課題や疑問が生じます。看護実践を通じて得られる知見を体系化し、科学的に検証することは、看護学の発展において不可欠です。愛知医科大学大学院博士課程では、そうした臨床疑問に対する研究を深め、実践に活かす力を養うことができます。

本学の特徴は、DNP(Doctor of Nursing Practice)とPhD(Doctor of Philosophy in Nursing)を同時開講している点です。DNPでは臨床現場の課題解決に直結する実装研究を、PhDでは看護学の理論的基盤を深める研究に取り組むことが可能です。いずれの課程においても、他領域、他分野との協働が可能であり、皆さんの疑問に応じて学際的な視点から看護の新たな可能性を模索することができます。

博士課程は、一人で黙々と進めるものではありません。本学には指導教員やコースの異なる仲間との交流を通じて、新たな視点を得る機会が豊富にあります。知的刺激にあふれる環境で、臨床疑問を科学的に探究し、看護の未来を切り拓いてみませんか？

2025年度開校の新しい研究環境で、私たちと楽しく、実りある研究生活を送りましょう！

博士後期課程の3年間は 人生を彩る貴重な 経験となる

谷口 千枝 教授

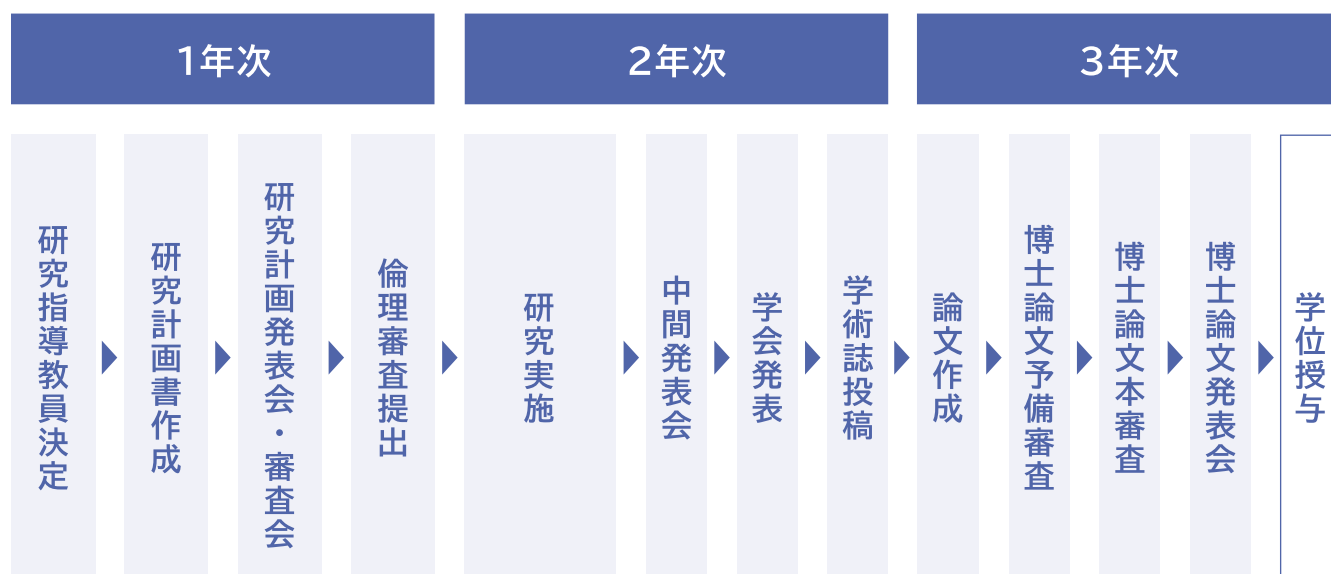


博士後期課程PhDコースでは、博士論文を書き上げるための研究のデザインやその手法について指導教員や副指導教員とともに3年間(長期履修制度では4年間)をかけて深く学ぶコースになります。

修士課程と比べて自主性をさらに重んじることがあるのでとても大変と感じることは多いと思います。ただ、この3年間で得られる研究への理解と粘り強さは、その後の皆さんの人生を彩る貴重なものになるはずです。

自らの経験を振り返ると、博士課程の期間は仕事と家庭、学業との両立にくじけそうになることも幾度となくありました。ただ、それを支えてくれる教員や仲間と出会えたということも私にとって貴重な財産となっています。ぜひ、一人ではなくみんなでがんばる!と思って、この機会を大変な中でも楽しみながら過ごしていただければと思っています。私たち教員は縁の下の力持ちとして、皆さんの3年間でずっと応援しサポートします！

学位取得までの論文作成スケジュール（修業年限3年）



修了要件

博士後期課程に3年以上在籍し、所定の単位（18単位以上）を取得し、かつ必要な研究指導の下、研究計画審査および研究倫理審査を経て、論文審査および最終試験に合格すること

感染看護学を極め、人々の健康の保持・増進や
看護の質向上に貢献したい！

| Senior Message

感染看護学領域 PhDコース

長崎 由紀子さん 第1学年

私は、看護教員として教育と研究を行っている中で、専門分野の研究をもっと深めたいと考えていましたが、自身のモチベーションやワークライフバランス等の状況から一歩踏み出せずにいました。この度、愛知医科大学大学院看護学研究科に博士後期課程が開設となったことと、指導教授とのめぐり合わせから、「私のタイミングは今だ！」と思い、意を決してPhDコースに入学しました。
今後、ご指導いただく先生方や関係する方々とよく意見交換をしながら、じっくりと研究に取り組んでいきたいと思っています。

Q&A

Q. 働きながら学べますか？

A. 出来る限り就業者が学べるように、社会人の就学に関する特別措置として、夜間・土日の開講、長期履修制度、**授業へのオンライン活用など**の対応をおこなっています。

Q. 長期履修は出来ますか？

A. 就業や育児などで標準修業年限内での修学が困難な場合は、長期履修制度が利用できます。長期履修期間は入学時から起算して4年です。
入学前の所定の期日までに申請が必要ですので、**指導教員に相談してください。**

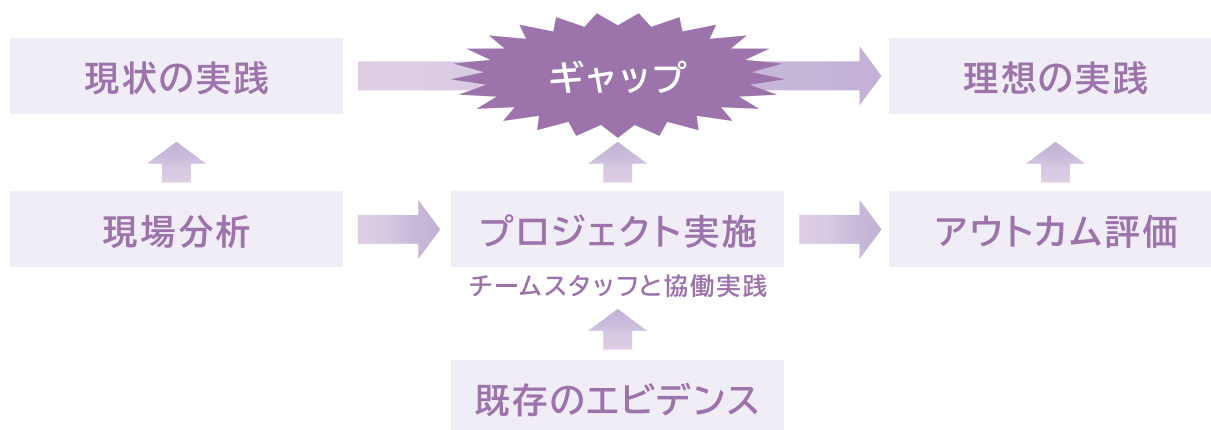
博士後期課程 DNPコース

DNPとは

DNPとはDoctor of Nursing Practiceの学位であり、DNPコースは、より良い看護実践のために既存のエビデンスを最大限に活用し変革できる実践者のリーダー・管理者の育成をめざす教育課程になります。諸外国では研究者を育成するPhDとともに、高度看護実践者として卓越した知識・技能をもち、看護実践の質向上・変革を押し進めることのできる人材を育成するDNPの教育が行われています。

DNPコースでは高度看護実践者として実装研究を推進するために必要な研究能力を身につけます。実装研究とは既存のエビデンスを実践に体系的に適用するための障壁や方法を科学的に研究するものです。現場の障壁や方法を分析し、チームスタッフと協働しながらプロジェクトを実施し、アウトカムを評価していきます。

DNPコースにおける実装研究



次のような人材育成を目指しています

DNPコースで身につける3つの能力

高度看護実践の高い知識・技能を有し、看護実践の質向上・変革を探究し続ける高度看護実践者・管理者としての能力

看護実践の質向上・変革をもたらす実装研究を推進するために、学際的視点をもった創造的な研究能力

実装的研究による組織や社会の変革を可能にするために、変革を提言しリードできる能力

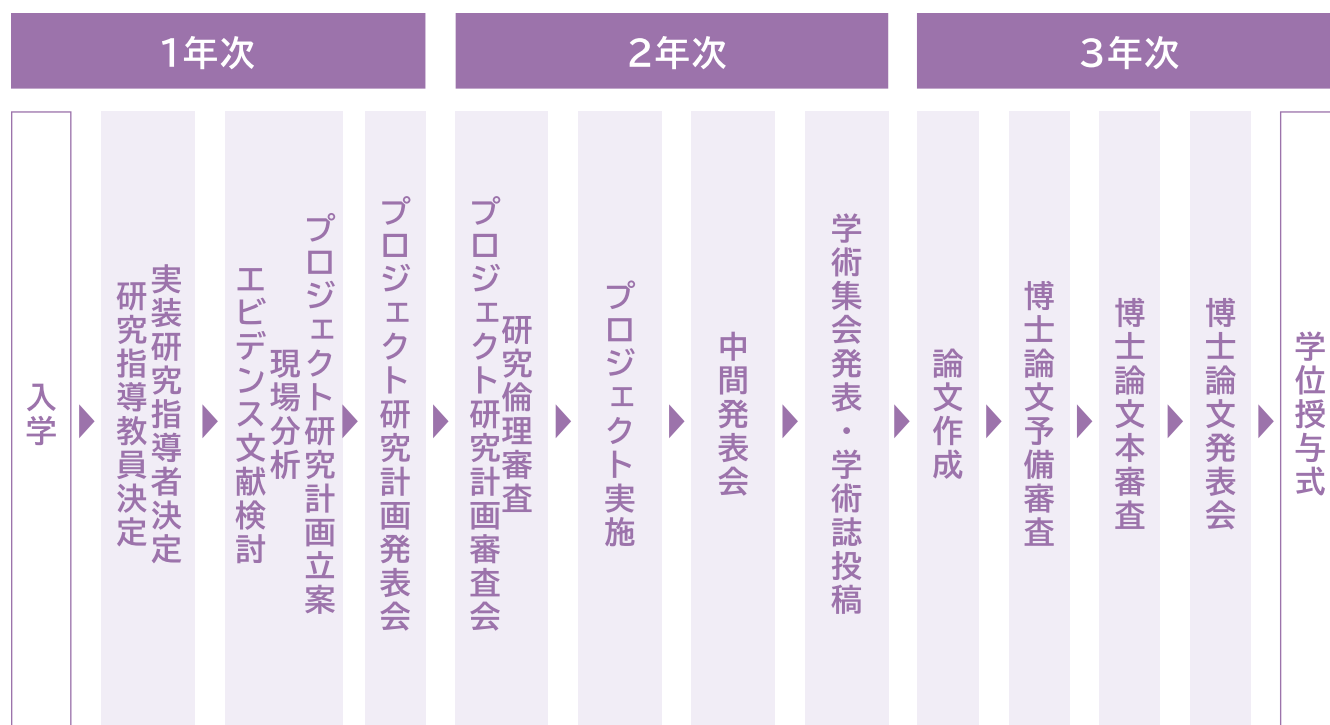
カリキュラム

共通科目	配当 年次	単位数		取得 すべき 単位数	専門科目	配当 年次	単位数		取得 すべき 単位数
		必修	選択				必修	選択	
看護科学哲学	1前	2		必修 4単位 選択科目 2単位以上	DNP特論Ⅰ（組織論）	1前	2		計12単位 以上
看護学研究方法論	1前	2			DNP特論Ⅱ（政策論）	1前	2		
高等社会統計学	1後		2		DNP演習	1後	2		
看護教育学特論	1後		2		DNPプロジェクト演習	1～3	6		

修了 要件

博士後期課程に3年以上在籍し、所定の単位（18単位以上）を取得し、かつ必要な研究指導の下、プロジェクト計画審査および研究倫理審査を経て、論文審査および最終試験に合格すること

学位取得までの論文作成スケジュール（修業年数3年）



※学位論文申請には査読のある学術誌等に公表された論文1編以上が必要です
※長期履修制度利用では4年間のスケジュールになります

実装研究により現場の看護実践の質向上を目指す

黒澤 昌洋 准教授

DNPコースは、看護実践者として実践に根ざした研究能力を育成することを目的とした博士課程です。PhDコースは研究により新たな知見を生み出す、DNPコースは研究で得られた知見を現場に還元する能力を育成するといえます。

研究成果に基づく実践方法があっても現場では採用されないことを、多くの看護師が経験していると思います。DNPコースでは、科学哲学と看護研究方法論で看護学の理論的基盤と研究方法論を深め、DNP特論Ⅰ（組織論）、DNP特論Ⅱ（政策論）で組織変革に必要な基礎知識を学びます。そして、DNP演習、DNPプロジェクト研究では具体的に実装するエビデンスに基づく介入の検討や現場分析に基づいたプロジェクト計画を立案し、多職種と協働したプロジェクトの実施とアウトカム評価を行っています。

DNPコースは専門看護師やNP教育課程修了者だけでなく、看護管理者や臨床現場で組織変革を行う全ての看護実践者を対象としています。ぜひ多くの看護職の方に挑戦していただき、現場の看護実践の質向上を目指して欲しいと思います。



日常の実践とエビデンスを照合し、患者さん、家族にとって価値ある実践としてチーム医療へ還元したい

| Senior Message

母子看護学領域 DNPコース

竹島 雅子さん

第1学年

新生児集中ケア認定看護師として、NICUにおいて特に早産児と親、家族と「子どもの健やかな成長発達」を共通目標とした家族と多職種とのパートナーシップ形成や日常の対等な話し合いに取り組んできました。周産期領域におけるファミリーセンタードケア（FCC）の概念やアウトカムは明文化されていますが、具体的な実践や関わりに困難があります。これまでの実践について学術的に学び深め、エビデンスと照合して現場でのチーム医療にフィードバックしたいという思いからDNPコースへの進学を決断しました。

大学は、高度実践者養成において積極的に取り組まれ、大学病院と連携し、恵まれた教育環境です。エビデンスを踏まえ、新しい発想で、パートナーシップを形成するためのNICUケアチーム育成プロジェクトを実践したいと考えます。



昼夜開講制・長期履修制度

医療等の現場で活躍している看護師・保健師の方々が退職や休職することなく学べるよう配慮しています。
職業を有している等の事情により、標準修業年限での履修が困難な学生を対象として、修業年限を超えて計画的に履修し、修了することができる「長期履修制度」を導入し、社会人の学びやすさを支援する体制を取っています。

[博士後期課程]

社会人 比率	2025年度 入学者	6名中6名(100%) [長期履修制度を利用する学生:6名]
-----------	---------------	-----------------------------------



研究環境

研究室

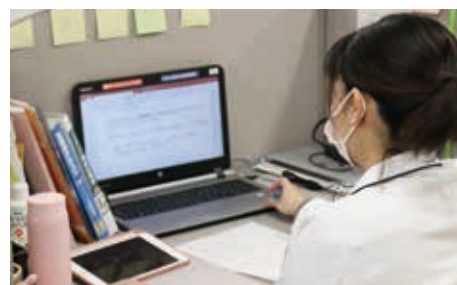
大学院生には、研究活動等で利用するための研究室を整備しています。一部の研究室は24時間利用可能で、パソコン、机、保管庫・ロッカーを設置しています。

総合学術情報センター(図書館部門)

医学・看護学及び関連分野の学術情報を収集・管理し、教育・研究・診療を支援する専門図書館があります。図書約10万冊、視聴覚資料約1,500点、学術雑誌約4,000タイトルを所蔵しており、学内外を問わずどこからでも所蔵状況を確認することができます。利用にあたっては、医療情報の専門家である図書館員が検索のコツや利用上の相談にも気軽に応じます。平日は22時まで利用できることに加え、毎週土曜日及び一部日曜日も開館しており、利便性の向上に努めています。

総合学術情報センター(情報基盤部門)

先進的な設備や最新のICT技術を導入し、学習支援環境の整備に積極的に力を注いでいます。課題解決(表分析、レポート作成等)などで、利用時間内であれば自由にパソコンが利用でき、操作支援やトラブルの対応には専門スタッフがサポートします。



特別講義

看護の展望や看護の探求心、知的好奇心を育成するとともに、看護職者としての意識の改革、看護に対する関心への動機付けを狙いとして、年に数回開講しています。

修了生へのサポート

本研究科では、修了生に対してのフォローアップ、キャリアサポートを目的とし『看護学部同窓会』を設置しています。『看護学部同窓会』では専用のメーリングリストを作成し、本研究科で開催するイベントの情報を発信したり、研究科担当教員及び修了生相互の情報交換の場として運用されています。



提携大学

アメリカ合衆国 オハイオ州



ケース・ウェスタン・
リザーブ大学

フランシス・ペイン・ボルトン看護学部

ケース・ウェスタン・リザーブ大学は、医学・看護学の分野における教育・研究において米国内で高い評価を得ており、中でもフライトナーシングに関する分野では先進的な活動・研究が進められています。

タイ王国



マハサラカム大学

看護学部

マハサラカム大学は、タイ東北部の高等教育の中心を担う国立総合大学で、20の学部にて45,000人の学生が学んでいます。医療系に強い大学としても有名で、医学部、看護学部、薬学部、公衆衛生学部、獣医学部が互いに連携し、高いレベルの教育・研究を行っています。

シンガポール共和国



シンガポール国立大学

ヨン・ルー・リン医学部アリス・リー看護学科

シンガポール国立大学は、アジアのトップ校として教育・研究をリードするハイレベルな大学です。ヨン・ルー・リン医学部アリス・リー看護学科は、2016年に開設され、シミュレーションセンターや多職種連携教育などによる優秀な看護師を養成するための教育と科学的根拠を確立するための研究が行われています。

フィンランド



オウル大学

医学部健康科学センター／看護科学学科

福祉先進国フィンランドは、高齢者福祉や子育て施策など日本が抱える健康課題について多くの取り組みがなされています。

アメリカ合衆国 カリフォルニア州



サンディエゴ大学

ハーン看護健康科学学部

米国において、特に多種多様な文化を持つサンディエゴにあるハーン看護健康科学学部は、南カリフォルニアやメキシコのヘルスケアシステムに関する研究で高い評価を受けています。

国際交流

本研究科では、国際的な視野を広げることを目的に、本学の学術協定校での海外研修を実施しています。

医学・看護学において先駆的な教育・研究がなされているケース・ウェスタン・リザーブ大学(米国)や、高度実践看護師APNs教育を先導しアジアのトップ校であるシンガポール国立大学(シンガポール)をはじめ、マハサラカム大学(タイ王国)、オウル大学(フィンランド)、サンディエゴ大学(米国)といった特色ある看護実践にふれることができる海外研修の機会が準備されており、旅費の一部を助成する制度があります。

また、協定校の教員による遠隔講義や招聘講演など、日本とは異なる海外の大学院教育に触れ、海外の研究者・看護実践者と意見交換をする機会があります。

視野や交流を広げ、 看護師人生に彩を!

ケース・ウェスタン・リザーブ大学 2025

大溝 那奈さん 第2学年

米国の病院、施設の見学や体験、大学の講義への参加を通じて日本と米国両方の医療の素晴らしさを知る事ができました。OCPや海外研修を機に米国の方との交流ができ、今も交流は続いています。オフの日も楽しかったです。自分の視野と交流を広げるチャンスです!

Senior Message



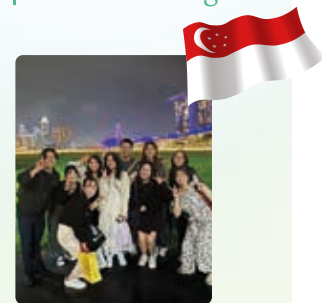
授業も研究も、国を越えて ~シンガポールで広がった学びと 国際的なつながり~

シンガポール国立大学 2025

佐藤 知史さん 2024年度修了

本研修では、高度実践看護師コースの講義を英語で受講しました。シンガポールでは、病態・鑑別・治療と一緒に学修する横断型の授業が展開されており、日本との教育の違いを実感しました。また、自身の研究について現地教員と議論し、国際的な繋がりを持つことができました。学生との交流や観光も含め、充実した研修でした。

Senior Message



現地の学生たちとの交流の様子

国を超えた看護のつながり

マハサラカム大学 2023

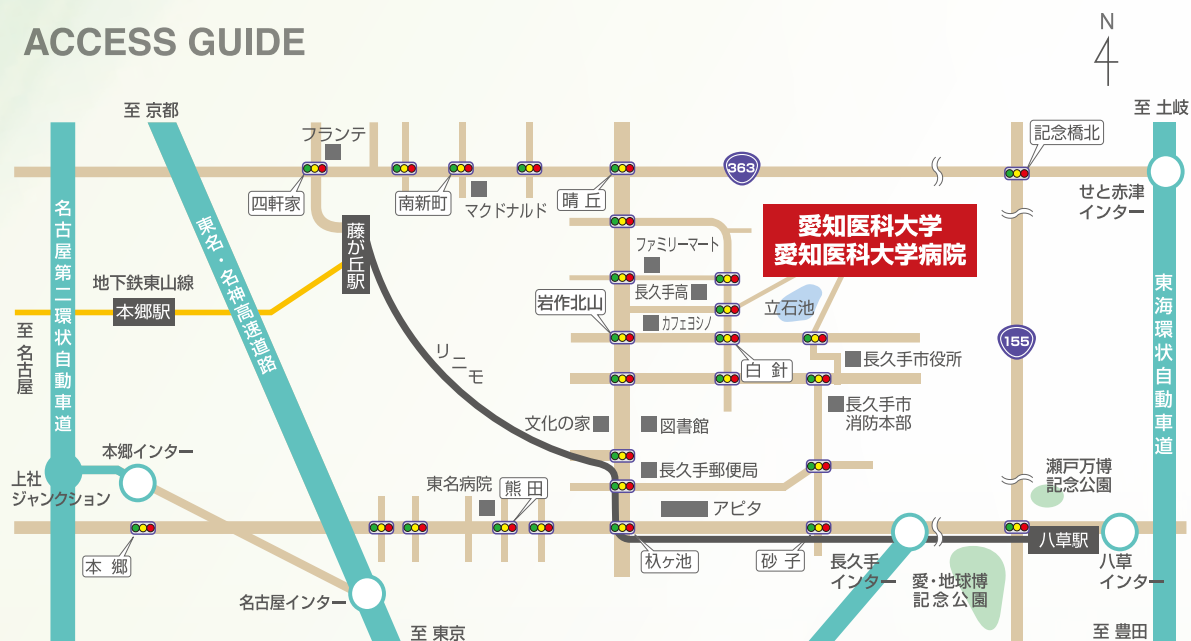
上里 佳那子さん 2023年度修了

マハサラカム大学では、地域看護と母子看護に重点を置いたプランを組んでももらいました。大学病院の伝統医療の見学や地域の医療ボランティアの方との交流など興味深かったです。現地の信頼できる看護師さんたちとのつながりもできた充実した研修でした。

Senior Message



ACCESS GUIDE



■幹線道路から

- ①東名・名神高速道路・名古屋インターから車で約15分、長久手インターから車で約10分
- ②名古屋第二環状自動車道・本郷インターから車で約15分
- ③東海環状自動車道・せと赤津インターから車で約30分

■公共交通機関

名古屋駅から地下鉄東山線で「藤が丘」駅まで25分、地下鉄東山線「藤が丘」駅から名鉄バスで約15分

*詳細はホームページをご確認ください。

看護学研究科 入試説明会

詳細はホームページをご覧ください

【修士課程】



【博士後期課程】



【お問い合わせ先】

愛知医科大学看護学部教学課大学院係

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1

TEL:0561-62-3311(代表) 〈直通〉TEL:0561-61-1827 FAX:0561-63-1093

E-mail: gakumu@aichi-med-u.ac.jp

URL: <https://www.aichi-med-u.ac.jp/>



財団法人大学基準協会
「大学基準適合認定」